

分析結果報告書

特定非営利活動法人 UNE

納谷 光太郎 様

テーマ ・ハーブティー（クロモジ枝・葉）に含まれる揮発性成分の組成分析

[1] 分析目的 ・揮発性成分組成を確認する.

[2] 試料 ・ハーブティー（クロモジ枝）
・ハーブティー（クロモジ葉）

[3] 試料調製

クロモジ枝・葉を4 mL 容ガラスバイアルに入れ、シリカモノリス捕集剤 Monotrap DCC18(1/8 分割, ジーエムインス) をヘッドスペース部分に吊るし, 60°Cで1時間加熱することにより揮発性成分を捕集した(図1). 揮発性成分を捕集した Monotrap DCC18に400 μ Lのジクロロメタンを加え, 超音波で5分間抽出した試料をガスクロマトグラフ分析用試料とした.



図1. 揮発性成分の捕集

[4] 分析条件

・装置	GC-2010(島津製作所)
・カラム	DB-624 30m,0.32mm ID,1.8 μ m(Agilent)
・カラム温度	45°C (hold 1min)-30°C/min 105°C -5°C/min 140°C -10°C/min 250°C(hold 5min)
・キャリアガス	He
・注入量	1 μ L
・注入モード	スプリット (20:1)※
・気化室温度	220°C
・検出器	FID
・検出器温度	280°C

※未同定成分は直鎖アルカンを用いた保持指標 (RI) によって特定する.

[5] 分析結果

枝に含まれる揮発性成分の組成分析を行った結果、linalool 含量が 70.8%で、その他の揮発性成分の割合は僅かであった (図 2)。葉の linalool は 27.5%，次いで 1,8-cineol が 25.7%であった (図 3)。クロモジの葉は枝に比べて 1,8-cineol が多い傾向にあり、本試料においても同様の結果となった。

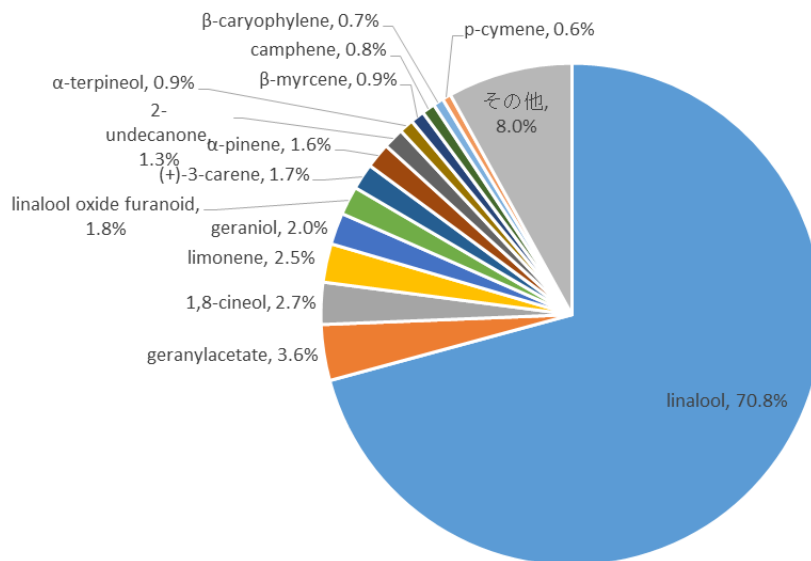
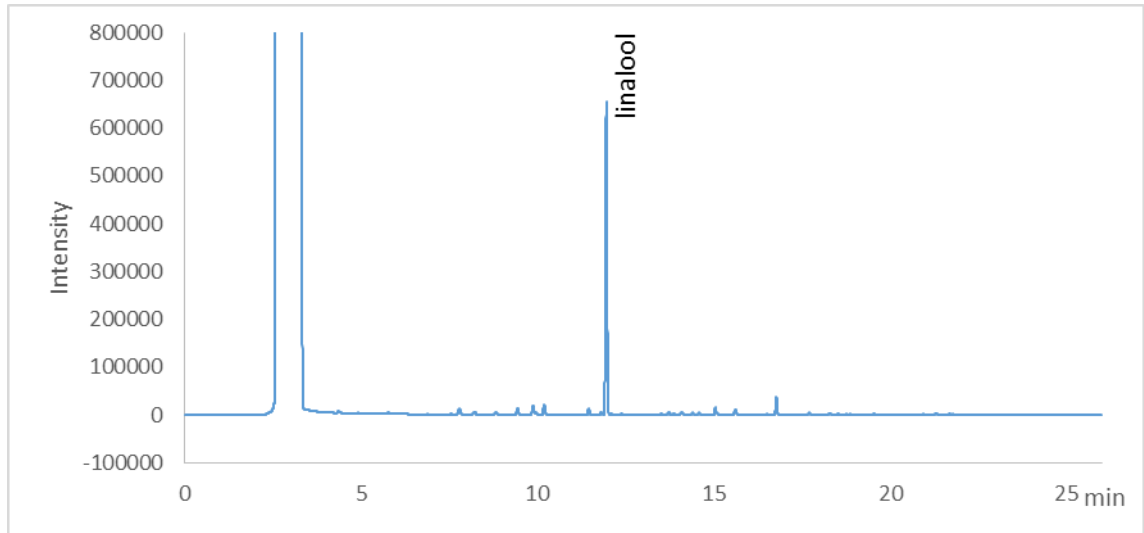


図 2. 枝の GC クロマトグラムと揮発成分組成

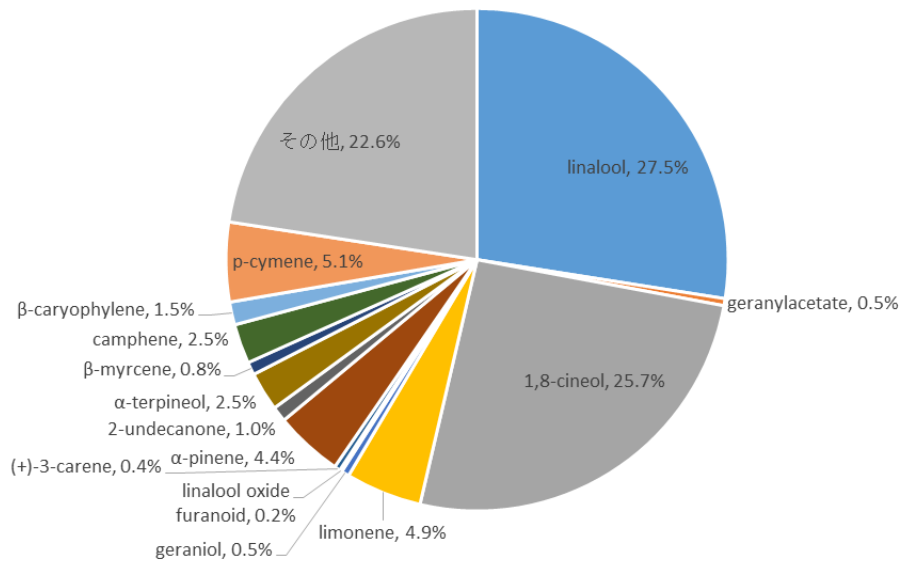
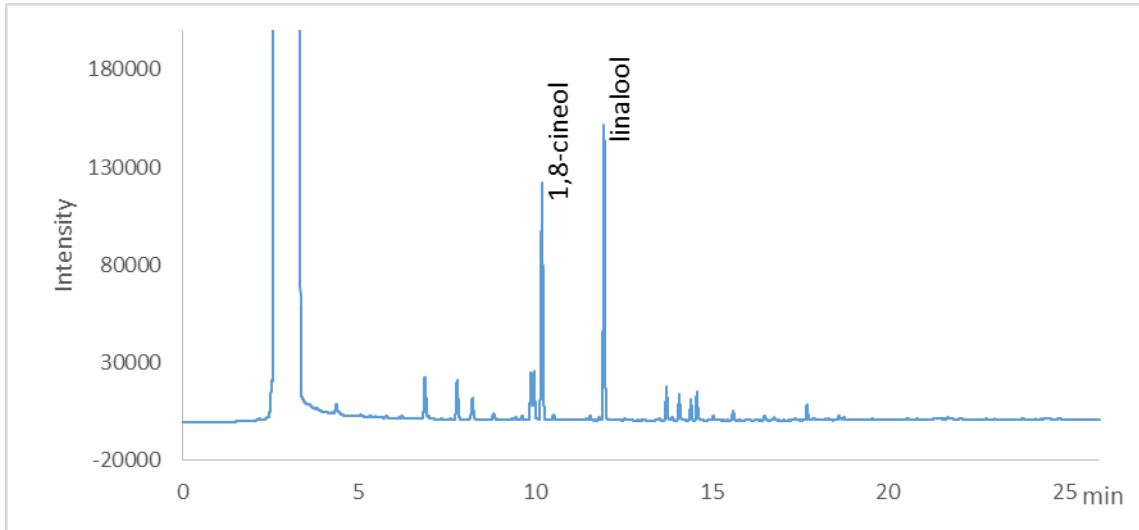


図3. 葉の GC クロマトグラムと揮発性成分組成

以上

養命酒製造株式会社
商品開発センター
分析担当：古川康二